

みつくら

平成30年 9月15日 第274号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

7区公民館が賑わう

去る、8月18日午後6時より7区自治公民館（畠山勝則館長）で恒例行事となっている「ふれあい広場に集まろう」（子供から高齢者の集い）を掲げている夏の大イベントが参加者54名で行われた。この行事は運動会に次ぎ参加者が多いもので、参加費は各戸何名参加しても500円で、バーベキュー（一の滝同志会提供）、ビアガーデン、お楽しみ抽選会、花火大会（菅原 渉さん協力）を行った。今年度は新たにオープニングで輪投げ大会を入れたところ大いに盛り上がり、優勝は畠山久江さんとなった。

一の滝同志会の方々準備頂いたバーベキューセットでは、皆が和気あいあいと話も進み交流を深めれば、子供達は花火を楽しみいつの間にか、生ビール、ジュース等は品切れとなった。最後のお楽しみ抽選会では、新山の家族3名全員が当選し、参加者から拍手喝采となって終了した。

4年ぶりの外での盆踊りで大にぎわい

8月14日に8区の清流会（板垣伸吾会長）が主催、協力団体に7区一ノ滝同志会と9区好友会が大瀬川運動公園で盆踊りを開催した。7月21日の打ち合わせから買い出しや協賛店へのお願いなどを行い、当日は早い人は午前中から、午後は清流会OBや高校生などを合わせ30人位で会場の準備をした。久しぶりの外での為、櫓の足が錆びて回らなかつたりと、少し手こずる場面もあったが、4時には入り口の行燈に灯を入れて盆踊り会場が出来上がった。

盆踊りには欠かせない出店は一ノ滝同志会が担当、焼き鳥や焼きそば、フランクフルトを手際よく焼いていた。薄暗くなった6時半ごろには帰省したらしい家族らも含め、所々で同級生と話している姿も見えた。次第に参加者が増え始め7時過ぎには踊りの輪が出来きた。

今年は、好天に恵まれ120名が参加、中央に作られた櫓を囲んで踊る曲は大瀬川音頭と新石鳥谷音頭を主となり、子供達からお年寄りまで賑やかな盆踊りを楽しんだ。お楽しみ抽選会では、子供達は直ぐ前に陣取り番号が発

表される度に一喜一憂していた。

今年の一等賞の辻村大雅（久助）さんへ花巻温泉ギフト券1万円分、会長賞は熊谷レイ子（善助竜）さんへブランド牛肉1Kgが贈られた。反省会では、来年は大瀬川全体の若い人で開催しようと決まった。

大瀬川初のドローン防除

大瀬川で最初となったイモチ病の薬剤散布をドローンを使って8月10日に散布した。これは、菅原榮一さんが外谷地の水田1町5反歩の面積を業者のデモンストレーションを利用したもので、散布費用は反当千円であった。菅原さんは「薬剤は水と剤で、思ったより費用も安くとても便利なものだと思います」と話していた。

魔のカーブでまた人身事故

御所森の魔のカーブで、また人身事故が発生した。6月にも同じ場所で人身事故が発生していて、今年になってからでも3件目である。8月25日午後1時40分頃、70歳代と思われる男性が南進中に、カーブを曲がり切れずに電柱に衝突し、電柱は折れて県道を塞ぎ、通行止めとなった。このため、且ノ花家の丁字路から佐藤忠治さん宅の丁字路まで通行止めとなり、野原通りの交通は混雑を極めた。開通は午後6時頃で、電線が切れる恐れがあるため規制線が張られた。

同じ場所では、平成20年に車4台が絡む大事故、平成以後だけでも平成2年1名、平成5年1名、平成14年2名、平成16年1名の合わせて5名の尊い命が失われている。

福祉の集いで地域の絆づくりを考える

活性化会議主催の大瀬川福祉の集いが8月29日に市社協石鳥谷支部と共催で大瀬川振興センターで行なわれた。

社協、地域包括支援センターから3名の講師を迎えて「地域の絆づくり」「介護予防、日常生活支援事業への取り組み」「包括支援センターの役割」について学んだ。はじめに市社協地域福祉課長の根子祐司さんから「福祉」の対義語ってなに？と質問されて皆は頭を傾げた。答えは最近、良く見聞きする「自己責任」などと自分に直接関係することでなければよいと考える「他者や地域のことに対する無関心」ではないかと話された。また、「公助」はもう限界にきており今こそ「向こう三軒両隣、困ったときはお互い様」の共存、共生が大切になって来た。その中で、子どもの貧困問題は先進国では最悪の水準にある。これは将来的に大きな社会的損失になると話された。つづいて、地域福祉課主事の工藤淳さんから日常生活支援事業の花巻市内での具体的な取りくみについて紹介があり、福祉用具は8,000種類ある事などを知った。

最後の「もの忘れ相談プログラム」の得点結果に大きなショックを受けた人もあった。今回の参加者が17名で非常に少なく残念だったが、誰もが年齢を重ね高齢になった時に役に立つ集いであった。

屋内でも大盛会だった千鳥苑合同夏祭り

今年で7回目を迎える千鳥苑合同夏祭りは、初めての試みとして猛暑や通り雨を想定して苑内のホールでの開催となった。これが想定した通りの猛暑とにわか雨が降り大正解となった。

寿水会の吉田信雄理事長からは「この夏祭りは入所者と地域の人の交流を深める為に毎年開催しています。最後まで楽しんでください」の挨拶後、みちのく舞踏団5名が股旅物を10曲代わる代わる踊った。中でも昭和6年生まれ87歳による女剣舞に皆さんびっくり。次は、夫婦デュエットのパートタイム（芸名）の懐かしいフォークソングでは胸が熱くなり、続いている甲扇会（2人組）による優雅な日本舞踊にうっとり。それにも況してボランティアの大瀬川婦人会（15名）花北青雲高校（10名）千鳥苑の職員による踊り、大瀬川音頭は、仁昌寺苑長の上手さにアンコールの掛け声が出るほど全員で楽しんだ。

お楽しみ抽選会では、バラエティーあふれる賞品に入居されている皆さんも楽しんでた。最後に「皆さんに支えられてこの様な交流会ができて大変有難う御座います。今後も宜しくお願いします」と話されアットホームな夏祭りとなった。

2回目となる河川の環境整備

9区自治公民館（高橋昭一館長）事業となっている大瀬川橋から松林寺橋までの葛丸川河川敷片側の草刈りを、9月2日に39名が参加、各班ごとに分かれて行い約1時間ほどで、事故もなく終了した。

今年は猛暑のためか、葛（くず）の蔓（つる）が多くて草刈り機に絡まり作業しづらかった。

「開かずの靴」からの歴史探訪講座

大瀬川活性化会議主催の第54回大瀬川歴史探訪講座は「大瀬川の戦死者を語り合う」のテーマで板垣忠雄さんを講師に、30名が参加して大瀬川振興センターで行われた。

今回、戦没者の遺族を取材中に偶然、施錠された「あかずの靴」が見つかった。

この靴は、忠雄さんの父板垣榮さんが昭和18年12月に戦死され、その形見として遺されていたもので、榮さんから忠雄さんの奥さんに引き継がれていたが、忠雄さんは知らずにいた。この靴の中には、戦地に届いた手紙や公文書などがあり、戦時中の大瀬川の様子が浮き彫りとなり、前回の区長記録に続く貴重な資料となった。参加された皆さんからも戦時下の悲惨な体験談が出て、時間を延長して語り合った。

この講座には、岩手日報、岩手日々新聞社の記者を招き、岩手日報は地域欄に、岩手日々新聞には「けっして風化させない」と記載されている。

この貴重な遺品は、11月に行われる文化祭で展示、陳列する予定となっている。

みつくら

平成30年 9月15日 第274号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

ついに大瀬川に人工知能が来たあー

さる7月の市政懇談会で市の職員が銀色の40センチ位の箱状の物を2個ステージ脇に置いていた。懇談会が始まると、なぜか話をする人に真新しいワイヤレスマイクを渡して話をする様にしていた。懇談会の終わりに近い頃に「この機械は新たに導入した議事録を文書化する人工知能です」と説明があり、これでマイクを使用した理由が理解できた。今回使用して学習させた標準語はもろろんのこと方言も理解するので学習させていくと話していた。
 このAI（人工知能）は花巻弁をどう理解したか、非常に興味がある。

「石鳥谷の匠」展に畠山さん

石鳥谷図書館で8月1日から開かれている「実はすごい!石鳥谷の匠」展に畠山勝敏さんが紹介されている。その中で「畠山さんは、長野県で電気メーカーに勤務していたが、造園業を継ぐため26歳の時に東京の専門学校で造園業を学び現在は、有限会社畠山造園土木の代表取締役で文化財庭園保存技術者協議会会員として、文化庁から委託された東日本大震災被災庭園の修理にも携わっている。
 畠山さんが大事だと思っている事は、人を育てている葛丸の農村環境を守る会の事。造園技術を次の世代に伝えていかなければ、長い歴史を持つ日本庭園の伝承が途絶えてしまうから」とありました。この企画展は10月31日まで石鳥谷図書館で開かれている。

表彰 (敬称略)

第27回市老連石鳥谷支部分会グランドゴルフ大会
 男子の部6位菅原敬夫(75名命中)、
 女子の部2位菅原幸子、9位熊谷レイ子(40名中)。
 花巻市長表彰 菅原美津子(厚生保護)、菅原重子(花巻市男女共同参画推進活動)
 県更生保護協会理事長表彰 菅原千恵子

7区自主防災会開かれる

去る8月18日、7区自主防災会では2部構成で訓練を行った。1部は、7区の自治公民館長宅、区長宅、千鳥苑には各々1台ずつ防災無線が設置されており、千鳥苑館内や非難困難者宅と一時避難先となる自治公民館の間で防災無線の交信状況を確認した。また、その間には役員達で防災備品の点検、整備も実施した。2部は、23名が参加して今後7区公民館の新たなアイテムとなる大瀬川活性化会議より貸与されたAED(自動体外式除細動器)の操作方法を花巻北消防署の八重樫副署長、佐々木士長、佐々木救命士を講師に受講した。
 なお、10月28日には大瀬川地区合同防災訓練が実施予定となっており、さらに地域防災の意識を高めたいものである。

珍しい自生の「ツチアケビ」を発見

9月8日に菅原利男さんは、前ノ竈家の北側にある林の中で自生している「ツチアケビ」を発見した。漢字では「土通草」と書く。関西地方に咲くラン科の植物であるが県内では非常に珍しい。菅原さんは「50年ほど前に同じ場所で見ることがあるが、非常に珍しいのに出会えてびっくりしている」と話していた。調べて見ると、発見したツチアケビは、「光合成を行う葉を持たず、養分すべてを共生菌に依存し、ナラタケとラン菌根を形成し、栄養的には寄生している。初夏に花茎を地上に伸ばし、花茎は高さが70cmくらいで、果実は秋に成熟する。果実は楕円形、多肉質で、熟するにつれて重く垂れ下がり、多数の真っ赤なウインナーソーセージをぶら下げたような姿になり、果実は肉質の液果である」とあった。写真は次号の10月1日号に掲載します。

人事 (敬称略)

大瀬川交通安全母の会 会長 熊谷政子、副会長 菅原幸代
 清流会 会長 板垣伸吾、副会長 熊谷信人、板垣和郎、
 事務局 熊谷暁、会計 辻村 智
 はげます会 (平成29年～)
 会長 菅原昭悦、副会長 畠山英男、板垣武美
 山祇神社 (改選のみ) 総代長 板垣正博、
 副総代長 菅原敏幸、熊谷秀典、
 監事 熊谷利昭
 JAいわて花巻石鳥谷地域年金受給者友の会
 副会長 板垣幸寿

8区で認知症サポーター養成講座

あじさいの会(菅原美津子会長)主催の認知症サポーター養成講座は、8月28日に11名が出席して大瀬川振興センターで開かれた。
 菅原真子市認知症地域支援推進員から、誰もがなり得る認知症について詳しい説明があった。その中で、認知症のサインに早く気づいてあげる事や、認知症にならないよう頭脳を使った運動が大切な事が分かった機会であった。

人命救助ならぬ狸名(りめい)救助

7月16日、板垣邦博さんは草刈り中に、熊谷賢良さんの直ぐ西にある上口堰脇のパイプラインバルブ塩ビ管に落ちている動物を見つけ、長八竈に知らせた。妻から「熊の子が塩ビ管に落ちている」と聞いたので行って見ると、何のことはないそれは紛れもない狸の子であった。水に濡れていたのが黒いだけであった。上から覗いたなら、頭も、身体も真っ黒い生き物なので熊の子と思ったと言う。かなり弱っていたので、このままでは死んでしまう。野生動物の捕獲は禁じられているが、放ってもおけないだろう。邦博さんが上から手を伸ばしてももう少しの所で届かない。そこで、板垣幸夫さんに救助を求めた。幸夫さんは、魚捕りの柄のついた網を持って来て、上に引き上げてようやく救助した。弱っていても、狸の子も怖いのか邦博さんに噛みついて来る。取り合えず搬送用の猫を入れる籠に狸の子を入れた。さて、この狸の子をなにも入れるのかを考えたが妙案が浮かばない。そこでペット用の犬をいれる大きな金網の飼育器を買う事にしたら、邦博さんが「昔、ミンクを飼っていた時の金網がある」と言うので邦博さん宅に向かった。あったあった。小屋の二階に金網が積んであったのだ。二人で四角に大きめの金網の箱を作り、入り口も付け加えた。その金網に狸の子を移して様子を見ることにした。狸が元気になったら、放す前に犬のように首輪を付けて少しは散歩したいと思もした。ところが、猫の餌を与えても、焼き魚も見向きもしないのである。1日経っても水も餌も食べない。このままではやはり死んでしまうと思ったので、菅原昇区長に「役場に連絡して保護して欲しい」と依頼した。翌朝、あの程「むつくれ」て水も餌も食べなかった狸の子は全部ペロリと食べてしまっていたのだ。菅原区長には断りを入れ、散歩を楽しみにしながら、夕方覗いて見るとそこには狸の子はいなかった。妻に聞いた話なら「びーびーと母狸を呼ぶので、捕まえた場所に放してあげた」という。狸の散歩も夢となってしまった。

雨の中でのガードレール清掃

交通安全協会大瀬川分会(板垣吉彦会長)では、山祇神社例大祭前に神輿渡御コースのガードレール清掃を行っている。今年は、9月9日に14名が大瀬川振興センター駐車場に集合。長年この事業を行っているが雨に当たったのは初めて、そのため今回は洗剤を使用せず水洗いのみとして、各区に散らばっての清掃となった。

事務室

御所森近くの西側の水田を見ると、ちょっと変わった稲穂がある。麦のようなひげが長いのは「亀の尾」という品種で原種に近い品種。となりは、「かぐやもち」といってもち品種。その他は、「ささしぐれ」という品種で「ササニシキ」の親品種。興味のある方は御一見いかがでしょうか。